

校内別室でエネルギーチャージを！

不登校児童の状況

対象児童は、一斉授業が苦手なことで、教室に入ることへの不安感から校内別室登校となった。校内別室では、得意なことに挑戦している。

週に一度、担任とコミュニケーションを取る時間を設定している。

具体的な取組

○校内委員会で検討

当該児童・保護者の状況をアセスメントし、どのような支援が必要か検討した上で利用することができるようにした。

○利用方法の検討

校内別室での過ごし方を決める。

支援員が当該児童と相談して個別学習の内容を決めるようにした。担任や保護者と取組内容を共有した。

○振り返りシートの活用

当該児童は、振り返りシートに1日の利用内容を記入し、できたことを振り返ることで見通しをもち校内別室で過ごせるようにした。

支援員が作成した個別学習執務記録を基に養護教諭、特別支援コーディネーター、管理職が支援方法について、都度、改善や見直しを図るようにした。

○校内別室の活用

一人1台端末を活用したオンライン授業に参加し、授業の進度に合わせたドリル学習にも取り組めるようにした。

また、自分の好きなイラストやタイピングに取り組み、支援員や他の利用児童とのゲームなどを通してコミュニケーションを取れるようにした。

○利用の仕方はオーダーメイド

当該児童の状況に応じて、運用の仕方を適宜変えていく。



※学習に集中する個別の学習スペース

成果

校内別室の活用により、安定した登校につなげることができた。支援員や他の利用児童との関わりを通して、笑顔で過ごす様子が見られるようになった。校内別室で過ごすことで、エネルギーを蓄えて、次の授業に臨むことができた。

課題

校内別室利用児童の増加に対応するため、指導員による支援体制の充実や校内別室を担当する教員を明確に位置付けていく。